県南家畜衛生情報

2026
第106号
令和8年11月17日

主な内容

- Wild Cup 2026 準優勝～家畜保健衛生所 DX への挑戦～…1
- 養鶏場の飼養衛生管理基準の遵守状況確認結果について……2
- ランピースキン病の侵入防止対策を徹底しましょう……3
- 管内におけるアカバネ病の発生について……3
- 管内における豚のワクチン接種状況について……4

岩手県は、現在の県域確定から150年の節目を迎えました！

岩手県政150周年記念
（R4～R8）

Wild Cup 2026 準優勝　～家畜保健衛生所 DX への挑戦～

大家畜課　衛生担当

令和８年８月５日、岩手県水産会館（盛岡市）において開催された県農林水産部政策提案型調査研究コンテスト「Wild Cup 2026」において、当所から発表した「その判断、現場の外でもできませんか？ ～家畜保健衛生所 DX への挑戦～」が準優勝となりました。

本発表では、家畜保健衛生所における獣医師不足や業務負担の増加、経験や知識に依存した判断、現場確認に要する時間的負担などの課題に着目し、デジタル技術や AI を活用した業務の効率化について提案しました。

具体的には、解剖時の映像を共有する解剖遠隔支援、施設の状態を効率的に確認するドローンを活用した農場巡回、画像情報を活用した検査診断業務支援、および AI を活用した飼養衛生管理基準の評価について発表しました。

このうち、解剖遠隔支援及びドローンを活用した農場巡回については、既に試験的な検証を実施しました。前者は、令和８年４月の解剖で試験的に実施し、詳細な病変観察には改善の余地があるものの、作業手順の助言、作業全体の流れの把握や状況共有、コミュニケーション手段としては一定の有効性が確認できました。将来的には、複数の獣医師による診断支援や若手職員の教育への活用も期待できます。後者は、高病原性鳥インフルエンザ対策に資するため、同年６月の農場巡回で試験運用を行い、その結果、人が確認しにくい場所でも状況を把握でき、屋根の錆など補修が必要な箇所の確認に有効であることが分かりました。今後は、農場指導の効率化や記録の保存にも活用できると考えています。

画像情報を活用した検査診断業務支援及び AI を活用した飼養衛生管理基準の評価については、構想段階ではありますが、収集したデータを AI に学習・解析させることで、組織として統一した診断や継続的・定量的な評価が実現できるよう、今後もデジタル技術及び AI の活用に関する検証を進め、より効果的かつ効率的な家畜保健衛生所業務の推進に取り組んでいきます。





養鶏場の飼養衛生管理基準の遵守状況確認結果について

中小家畜課　小家畜担当

令和８年度の養鶏場の飼養衛生管理基準の遵守状況確認（以下、巡回という）を、４～９月に実施しました。今年度、不備が多かった項目は、①【項目 11】埋却地等の準備、②【項目 18】管理区域専用の衣服・靴の設置及び使用、③【項目 25】施設へのネット等の設置、④【項目 28】飼養衛生管理区域内の整理整頓・消毒でした。遵守状況は、年々改善傾向にありますが、施設の立地条件や設備の状況により改善に時間がかかっている項目や随時対応が必要なネットの修繕などが不備項目として残っている傾向がありました。

養鶏場の皆様には、巡回時に改善が必要と確認された事項については「飼養衛生管理基準通信簿」（以下、通信簿という）をお送りしているので、鳥インフルエンザの発生リスクが高くなる 10 月中を目標に改善を進めてください。

また、通信簿では巡回時の状況を点数化し、「見える化」しています。今年度（９月 30 日時点）における管内 134 戸〔 肉用鶏 96 戸、採卵鶏（1，000 羽以上）11 戸、採卵鶏（1，000 羽未満）10 戸、種鶏（採卵・肉用）17 戸 〕 の巡回状況は下表の通りでした。

経営形態ごとの平均点などを参考に、自農場の遵守レベルの目安としてください。

（表）

経営形態	区分	満点	最大	最小	R8平均	R7平均
肉用鶏	全体	(198満点)	198	143	168.3	164.2
	重点項目	(63満点)	63	38	52.1	51.1
採卵鶏（1000羽以上）	全体	(198満点)	197	128	164.4	157.6
	重点項目	(63満点)	63	35	51.5	50.5
採卵鶏（1000羽未満）	全体	(198満点)	156	136	145.2	143.7
	重点項目	(63満点)	53	38	43.3	43
種鶏（肉・卵）	全体	(198満点)	196	146	173.9	171.9
	重点項目	(63満点)	62	38	53.6	54.3

渡り鳥の飛来する 10 月から翌年５月は、鳥インフルエンザの発生リスクが高まることから、渡り鳥の飛来が本格化する前に、指導事項を改善、家きん舎及び家きん舎周辺を再点検し、破損箇所の修繕や野生動物誘因防止対策等を実施してください。







ランピースキン病の侵入防止対策を徹底しましょう

大家畜課　防疫担当

ランピースキン病が国内で２年ぶりに発生し、11 月 11 日現在、福岡県、鹿児島県及び長崎県の計６戸・10 頭で確認され、今後も発生拡大が懸念されます。

本病は吸血昆虫（蚊、サシバエ、ヌカカ等）により伝播するため、防除対策の徹底が重要です。

農家の皆様におかれては、毎日の健康観察を実施し、皮膚の結節、水腫、発熱、乳量低下などの異状を認めた場合は速やかに家畜保健衛生所へ通報してください。

また、発生地域からの牛の導入は可能な限り控え、やむを得ず導入する場合は健康状態を十分確認してください。

あわせて、衣類や長靴、器具機材の洗浄・消毒、注射針や直検手袋の１頭ごとの交換、人工授精器具の消毒を徹底し、農場への侵入・まん延防止に努めてください。

最新情報は農林水産省ホームページで御確認願います。



管内におけるアカバネ病の発生について

大家畜課　防疫担当

本年 10 月、一関市でアカバネ病の発生が確認されました。本県での発生は 15 年ぶりとなります。

アカバネ病はウイルス感染により牛やめん羊・山羊で流産、早死産、関節わん曲などの体形異常や大脳欠損症などの異常産を引き起こす疾病です。ウイルスは夏から秋にかけてヌカカによって媒介され、異常産は冬から翌春にかけて発生します。

本病に有効な治療法はありませんが、ワクチン接種により予防が可能です。近年発生がなかったことからワクチン接種率は低下傾向にあります。

農家の皆様におかれましては、妊娠牛を毎日観察し、異常産など疑わしい症状を認めた場合は速やかに家畜保健衛生所へ連絡するとともに、ヌカカの活動が始まる前の４～６月にワクチン接種を実施し、発生予防の徹底をお願いします。

管内における豚のワクチン接種状況について

中小家畜課　中家畜担当

令和８年３月に宮城県で 11 年ぶりに豚流行性下痢（PED）が発生し、また令和６年１月には本県で数十年ぶりとなる流行性脳炎（日本脳炎）の発生が確認されました。これらの発生を受け、令和８年度管内の養豚場を対象に、疾病予防対策におけるワクチン接種状況の実態調査を実施しました。

その結果、18 疾病（細菌性疾病 10、ウイルス性疾病 7、寄生虫病 1）に対するワクチンが使用されており、日本脳炎、豚丹毒及び豚サーコウイルス関連疾病（PCV）のワクチンは８割以上の農場で接種されていました。一方、PED ワクチンの接種率は約 20%と低く、未接種農場のうち 24%では、過去に接種していたものの、現在は使用を中止していることがわかりました（図）。

また、管内の８割以上の農場で使用されていた豚丹毒ワクチン及び PCV ワクチンの接種ステージについては、豚丹毒ワクチンでは、繁殖雌豚と子豚の両方に接種している農場が 50%、繁殖雌豚のみに接種している農場が 46%でした。PCV ワクチンでは、繁殖雌豚と子豚の両方に接種している農場が 42%、子豚のみに接種している農場が 50%でした。これらの結果から、同じ疾病に対するワクチンであっても、農場ごとに接種ステージが異なることが明らかとなりました。

今後も定期検査等により疾病発生状況やリスクを把握し、飼養衛生管理基準の遵守と適切なワクチン接種を組み合わせ、疾病の発生予防に努めましょう。

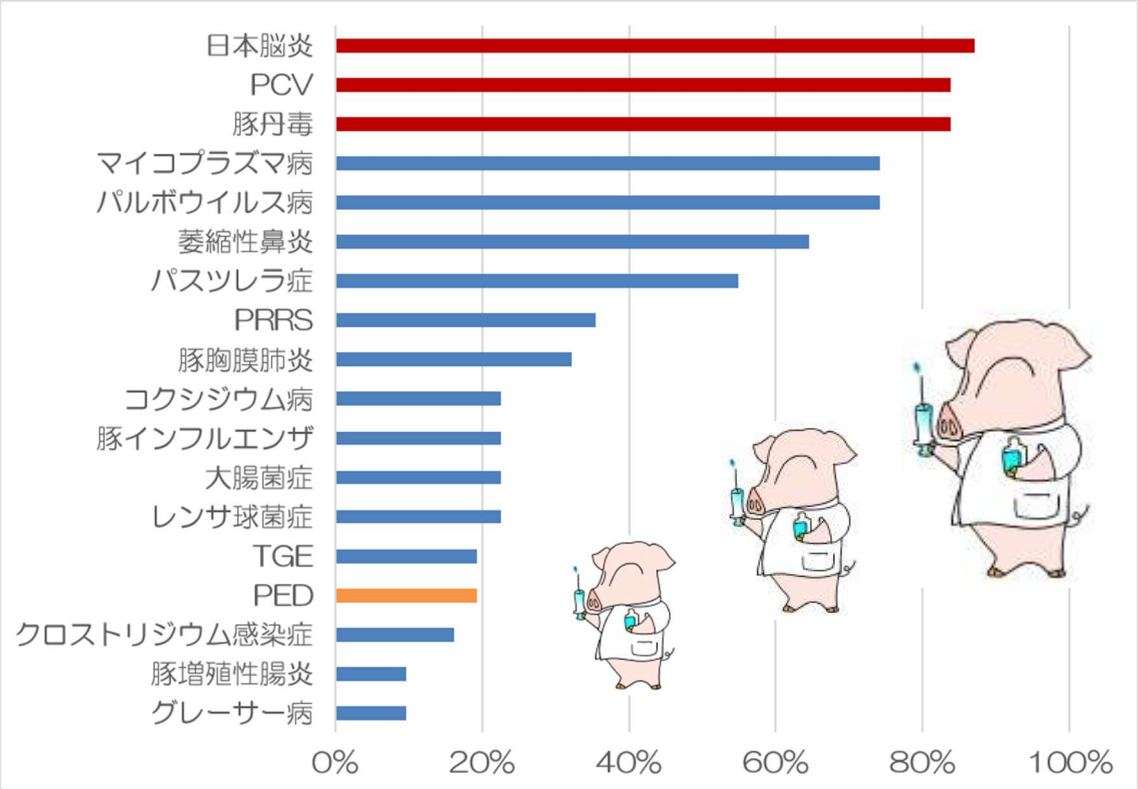


図 管内におけるワクチン接種状況

〒023-0003　岩手県奥州市水沢佐倉河字東舘 41-1
岩手県県南家畜保健衛生所　Tel 0197-23-3531　Fax 0197-23-3593
岩手県南家畜衛生推進協議会　Tel 0197-24-5532　Fax 0197-23-6988